葛根湯の使用目標
表の実熱証

- 太陽病・実証（中等度以上）
- 発熱・頭痛・悪寒・浮脈で力あり
- 項背の強ばり
- 汗はでない（表虚証ではない）

小青竜湯（しょうせいりゅうとう）に配合される主な生薬

辛温解表（しんおんげひょう）

身体を温めて発汗・解熱させる

細辛（さいしん）

【原料】ウマノスズクサ科のウスバサイシンまたはケイリンサイシンの根および根茎

桂皮（けいひ）

【原料】クスノキ科のケイまたは同属植物の樹皮。または周皮の一部を除いたもの

麻黄（まおう）

【原料】マオウ科のマオウまたはその他同属植物の地上茎

平喘（へいぜん）

気管支平滑筋の痙攣を緩解し、呼吸困難・喘鳴を鎮める

斂陰（れんい）

滋養強壮作用により身体を滋潤・栄養する

五味子（ごみし）

【原料】マツブサ科のチョウセンゴミシの果実

芍薬（しゃくやく）

【原料】ボタン科のシャクヤクの根

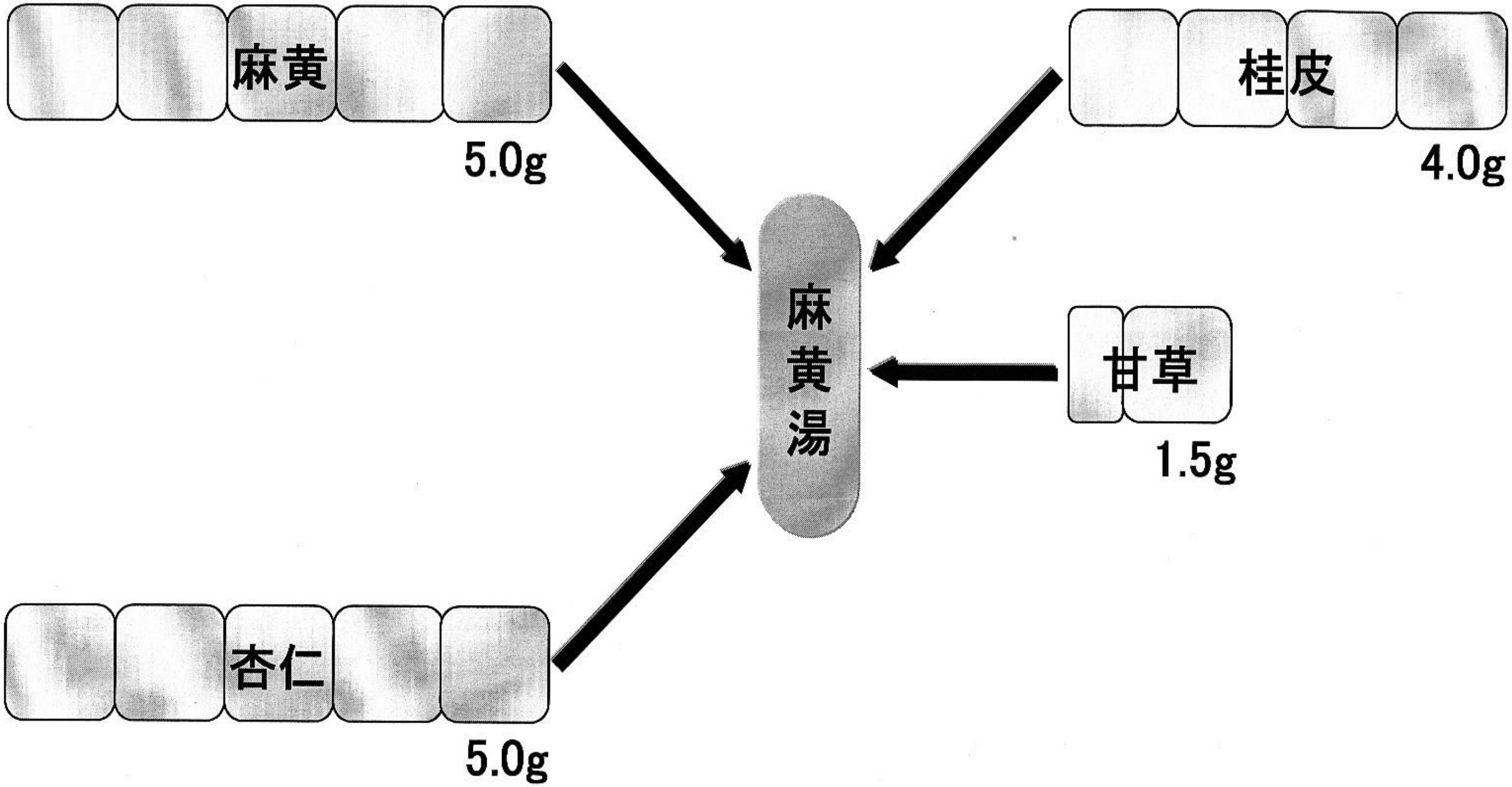
小青竜湯の使用目標

- 冷えると反応する、水バナ、くしゃみ
- タンは切れやすく、うすい
- 冬の寒いときの喘息
- ゼロゼロ、ゼーゼー、湿性の咳
- 心下部振水音、手掌湿潤（表邪・心下の水）
- 空腹時に飲む、内服回数を増やす

㉗ 麻黄湯（まおうとう）

（出典：傷寒論）

虚	やや虚	中間	やや実	実



麻黄湯の使用目標

- 自汗がないこと
- 緊脈・浮脈、力のある脈
- インフルエンザの適応
- 関節痛、腰痛
- 胃の弱い人には不適
- 子供の鼻閉に著効する

麻黄湯
「早めに、多めに、熱めに」

- 高熱時のファーストチョイスの処方
- 顔面蒼白、悪寒戦慄、高熱、熱感または赤ら顔
- 麻黄湯を服用する際は、回数か量を多めにして**少し汗ばむまで服用**させる！
- 汗ばんできたらそれ以上服用させる必要はない
- 肌を触って汗ばんでいたら**桂麻各半湯**へ！

桂麻各半湯

- 麻黄湯の重症感、無汗
- 桂枝湯の軽症感、微自汗
- 二つの証の中間を呈する場合に！
- 太陽期後半に！
- 高熱でも重症感がない場合がよい。
- 一般に、発熱を伴う夏風邪のファーストチョイス
- エキス剤がない場合、麻黄湯と桂枝湯を合方（東洋薬行にエキスがある）

桂枝湯

生薬	作用
桂枝（けいし）	発汗解表作用、営衛を調和させる。
芍薬（しゃくやく）	陰気を収斂し血脈を和す。
甘草（かんぞう）	解肌、抗利尿作用により津液を保護する。
生姜（しょうきょう） 大棗（たいそう）	脾胃の機能を補養し、営衛を整える。

参考：漢方常用処方解説

桂枝湯

普段から麻黄湯が合わない、麻黄剤で効果がみられない例で

発症当初から肌がしっとりとしている（少し汗ばんでいる）ことが条件。

高熱には向かない。葛根湯と同じように軽症の上気道炎、感冒によい。

麻黄附子細辛湯（まおうぶしさいしんとう）に配合される生薬

出典：傷寒論少陰病篇

「少陰病、始め之を得て、反って發熱し、脈沈の者は、麻黄附子細辛湯之を主る。」

麻黄

細辛

附子

麻黄・細辛 → 辛温解表（しんおんげひょう）・止咳・化痰（しがい・けたん）

辛温解表：**身体を温めて発汗・解熱させる**

止咳・化痰：**鎮咳・痰の抑制に働く**

細辛・附子 → 散寒・止痛（さんかん・しつう）

血行を促進し、体を温め、鎮痛に働く

麻黄・細辛・附子 → 利水（りすい）

麻黄附子細辛湯の使用目標

- 陰証の風邪
- のどチクチクの風邪に即効性あり
- アレルギー性鼻炎のファーストチョイス
- 必ずあついお湯で飲むべし
- 老人・虚弱者・寒証の風邪
- 麻黄の副作用に注意
- 桂枝湯（腹が張る場合）合方する

家庭医の持っておきたい神⑦

① 麻黄剤（葛根湯、小青竜湯、麻黄湯）

② 咳に対して（麦門冬湯、小青竜湯）

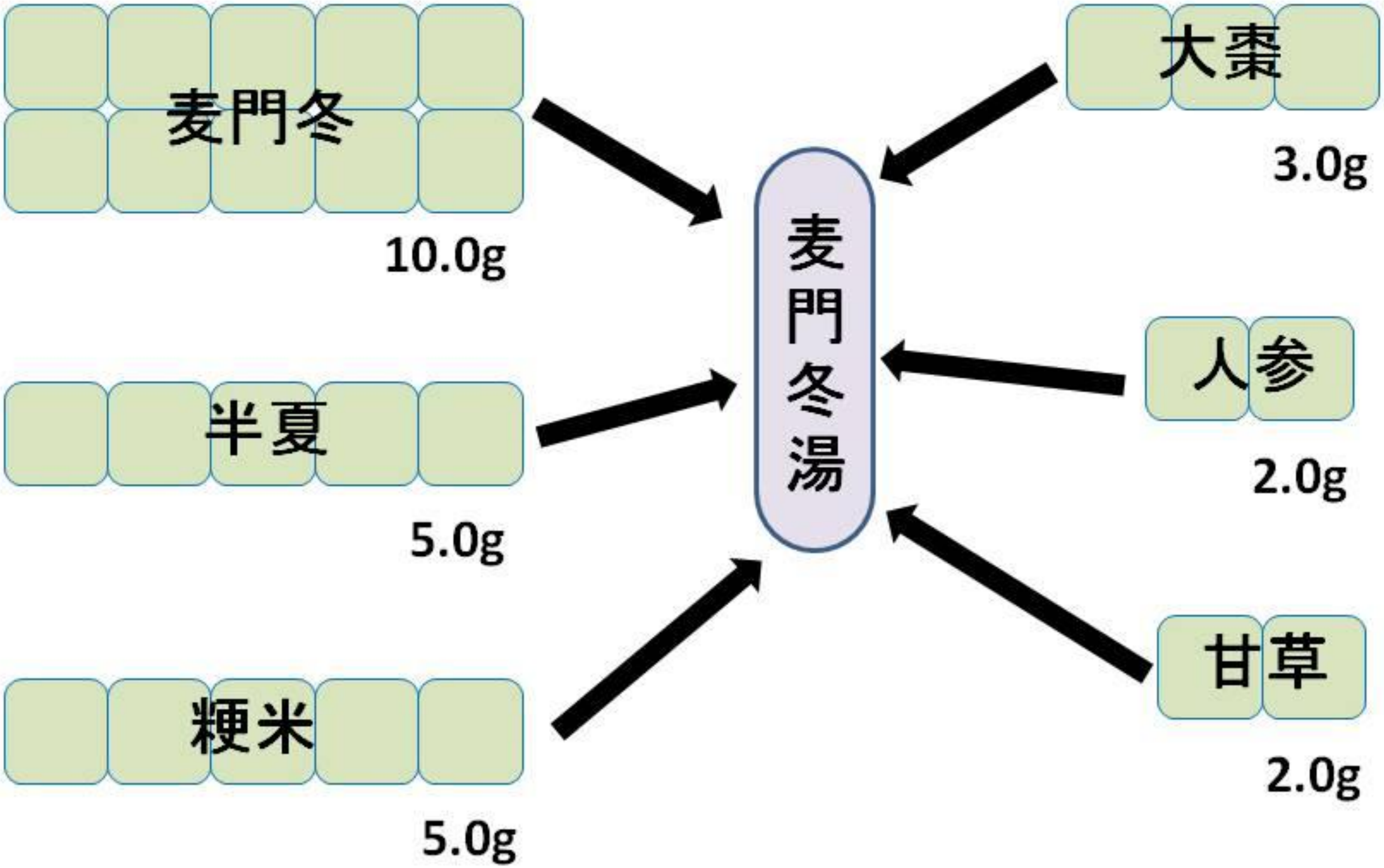
医）佐守小児科

㉙麦門冬湯

ばく もん どう とう

（出典：金匱要略）

虚	やや虚	中間	やや実	実



麦門冬湯の使用目標

- 体力中等度前後ないしそれ以下
- のどがいがらっぽい、乾燥する
- 発作性の咳、激しくせき込み顔を真っ赤に
  ふとんに入ると咳がひどい
- 西洋薬が効かない
- 濃くて切れにくい痰
- 合方：桔梗石膏･麻杏甘石湯･半夏厚朴湯

家庭医の持っておきたい神⑦

① 麻黄剤(葛根湯、小青竜湯、麻黄湯)
② 咳に対して(麦門冬湯、小青竜湯)
③ 小柴胡湯(柴朴湯、柴胡桂枝湯)

柴胡

- ミシマサイコ Bupleurum falcatum Linne（セリ科）の根
- 東アジア温帯～日本に分布
- 性味：苦･平、微寒
- 主な含有成分：サイコサポニン等

柴胡　薬能

- 疎肝解鬱・理気
  柴胡は強い疏肝解鬱・理気の作用をもち，抑うつ・緊張状態を緩解し，自律神経を調整して諸機能を円滑にするので，肝気鬱結には必ず用いられる．
- 清熱透表
  消炎・解熱し，さらに透表作用により熱を皮膚から発散するとともに軽度の発汗作用をもち，さらに疏肝理気の作用と合わせて熱証によく用いられる

小柴胡湯

柴胡（さいこ）
半夏（はんげ）
生姜（しょうきょう）
人参（にんじん）
大棗（たいそう）
甘草（かんぞう）
黄芩（おうごん）

疏肝解鬱

鎮痛作用を持ち、自律神経系の調整に働いて、いらいら・不安・憂うつ感・緊張感などを鎮める。

理気・止嘔・化痰・化湿

制吐・鎮嘔作用をあらわし、悪心・嘔吐を止め、蠕動を調整する。

補気健脾・生津

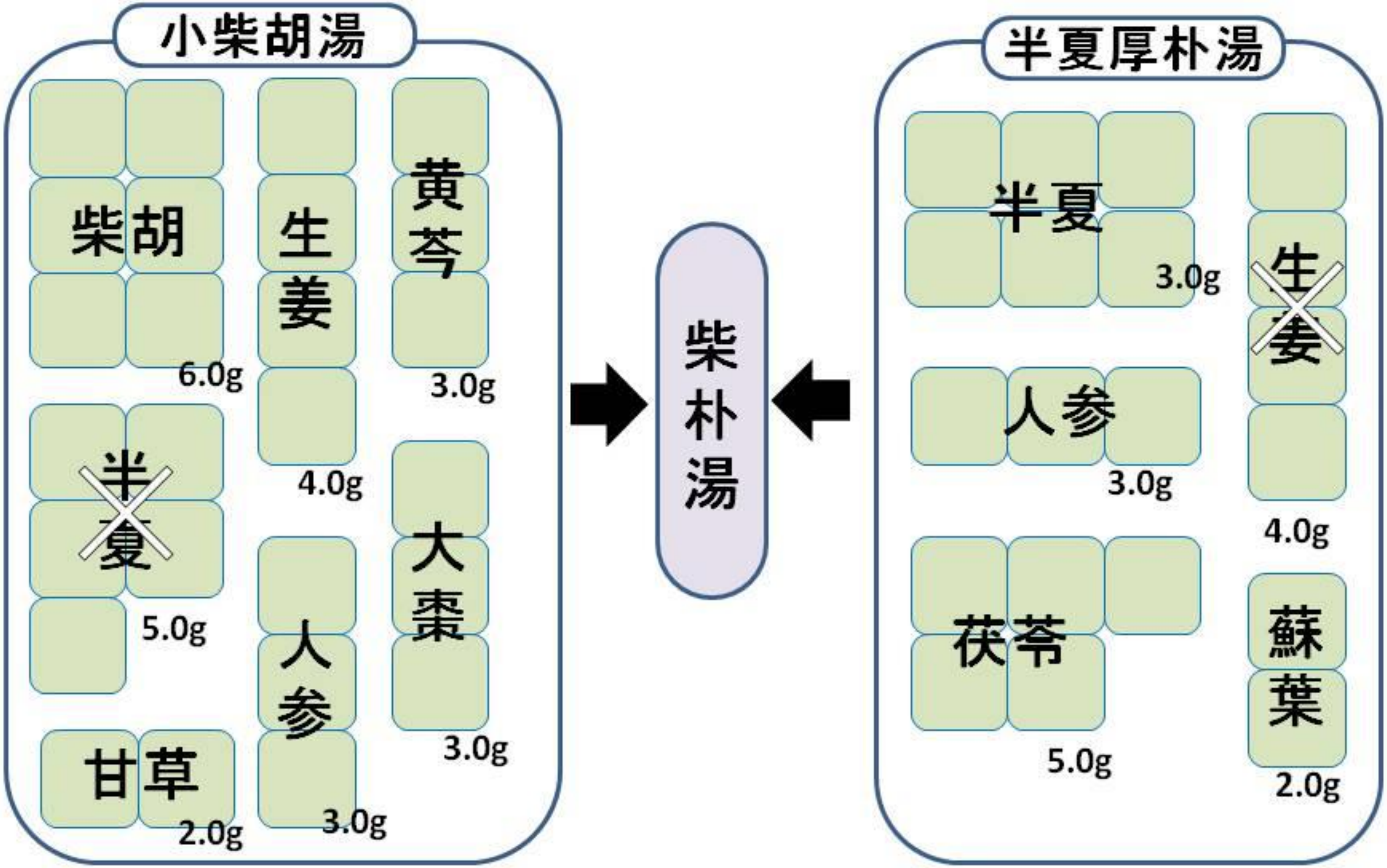
消化吸収を強め、全身の機能や抵抗力を高める。

出典：臨床応用漢方処方ガイド

⑯ 柴(さい) 朴(ぼく) 湯(とう)

（出典：本朝経験）

虚	やや虚	中間	やや実	実



柴朴湯の使用目標

- 胸脇苦満が必須・気管支喘息
- 心因型、ストレス型
- のぼせる感じ
- 喉の下がなんかつっかっかる感じ
- 心身症（咽喉頭異常感）
- 上半身に汗をかきやすい

柴朴湯

一般の咳嗽疾患に使う場合は気管支炎

何といっても気管支喘息の基礎治療

西洋薬・特にステロイド吸入の裏ベースに！

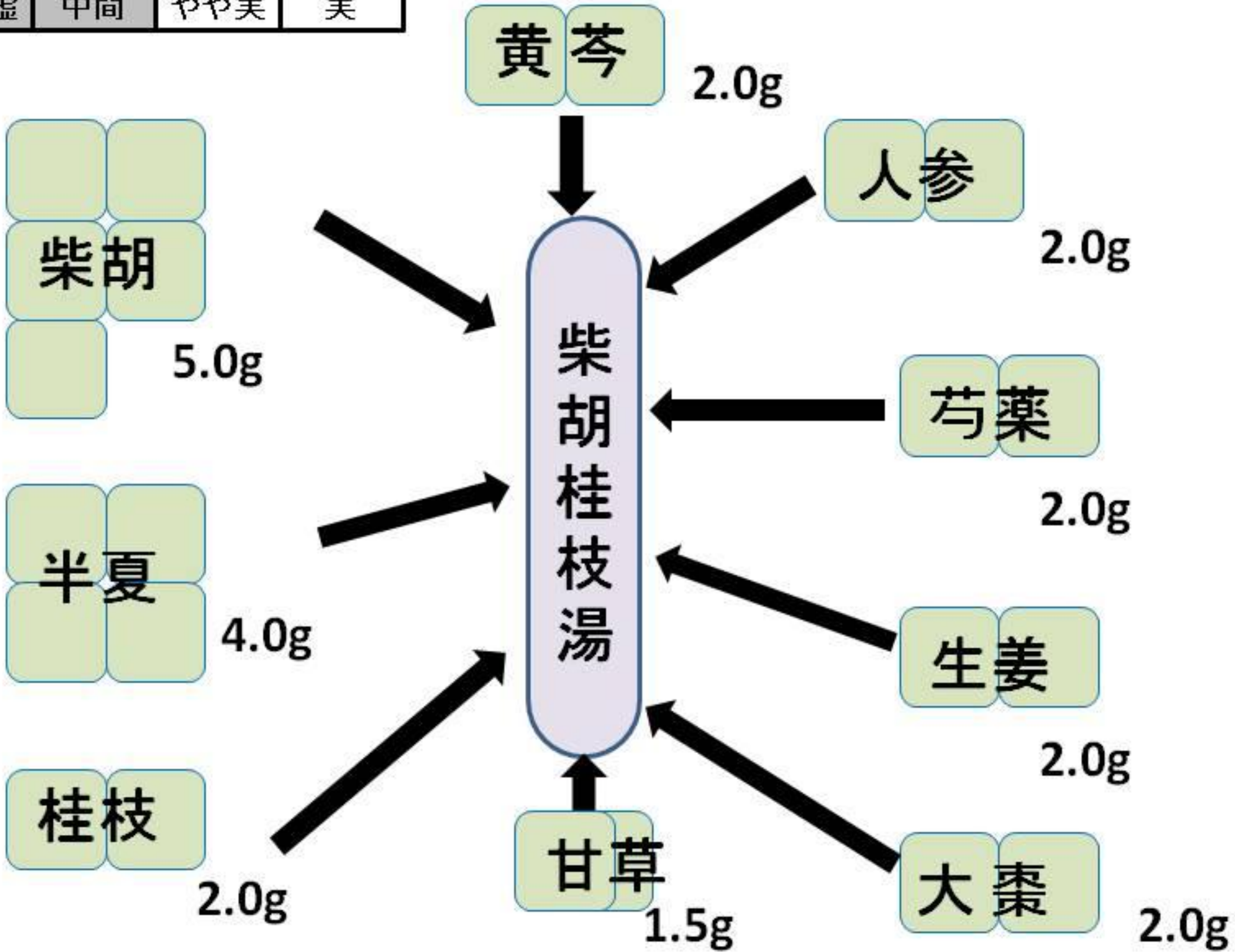
抗ロイコトリエン拮抗薬・ステロイド

気管支拡張剤が効かない

⑩ 柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）

（出典：傷寒論、金匱要略）

虚	やや虚	中間	やや実	実



柴胡桂枝湯

- 調理の剤として考える処方だが、いかなる上気道炎であれ、発症当初から本方を服用させると予後が良くなる。
- 麻黄湯、桂麻各半湯で人段落したら本方に切り換えるのが一般的だが、
- 証の把握が苦手な場合は最初から本方を与える方法もある。
- インフルエンザの時に使いやすい

家庭医の持っておきたい神⑦

① 麻黄剤（葛根湯、小青竜湯、麻黄湯）
② 咳に対して（麦門冬湯、小青竜湯）
③ 小柴胡湯（柴朴湯、柴胡桂枝湯）
④ 胃腸病に対して（安中散、半夏瀉心湯、黄連解毒湯、）

安中散料

- 桂皮（けいひ）
- 茴香（ういきょう）
- 良姜（りょうきょう）
- 縮砂（しゅくしゃ）
- 延胡索（えんごさく）
- 甘草（かんぞう）
- 牡蛎（ぼれい）

温中散寒

粘膜を充血させ、循環を強めて腹を温める

理気

制吐・止嘔、消化吸収を強める

調和

収渋（制酸）

止痛

出典：臨床応用漢方処方ガイド

半夏瀉心湯

黄芩（おうごん）
黄連（おうれん）

清熱・消痞
消炎・鎮静・解熱作用をもち、
健胃・整腸にも働く。

生姜（しょうきょう）

散寒

半夏（はんげ）

止嘔・理気・化湿　悪心・嘔吐を鎮める。

人参（にんじん）
大棗（たいそう）
甘草（かんぞう）

補気健脾
消化吸収を強めて
元気をつけ、全身
の機能を高める。

止痙
痙攣性の下痢・
腹鳴を止める。

出典：臨床応用漢方処方ガイド

黄連解毒湯

おうれん
黄連

おうごん
黄芩

おうばく
黄柏

さんしし
山梔子

清熱瀉火・解毒
涼血・化湿

強い消炎・解熱・抗菌・抗化膿の作用をもち、化膿性・非化膿性の炎症を鎮める。

利胆

出典：臨床応用漢方処方ガイド

家庭医の持っておきたい神⑦

① 麻黄剤（葛根湯、小青竜湯、麻黄湯）
② 咳に対して（麦門冬湯、小青竜湯）
③ 小柴胡湯（柴朴湯、柴胡桂枝湯）
④ 胃腸病に対して（安中散、半夏瀉心湯、黄連解毒湯、）
⑤ 利水（五苓散）

五苓散料

けいひ
桂皮

理気・散寒

血行を促進し、消化吸収を補助し、利水の作用を強める。

四苓散

ちょれい
猪苓

たくしゃ
沢瀉

びゃくじゅつ
白朮

ぶくりょう
茯苓

利水止瀉・消腫

組織中の水分を血中に吸収して利尿により除き、浮腫を消退させる。

健脾

出典：臨床応用漢方処方ガイド

家庭医の持っておきたい神⑦

① 麻黄剤(葛根湯、小青竜湯、麻黄湯)
② 咳に対して(麦門冬湯、小青竜湯)
③ 小柴胡湯(柴朴湯、柴胡桂枝湯)
④ 胃腸病に対して(安中散、半夏瀉心湯、黄連解毒湯、)
⑤ 利水(五苓散)
⑥ 肝(加味逍遥散)

加味逍遙散料

牡丹皮
山梔子

瀉火・涼血止血
鎮静・自律神経系の興奮の抑制・解熱・消炎・抗菌に働き、止血作用をもつ。

逍遙散

薄荷
柴胡
芍薬

疏肝解欝
いらいら、緊張感を緩和する。

当帰

柔肝 肝陽の暴走を抑制すること

白朮
茯苓
甘草
生姜

補気健脾
栄養を与え、消化吸収を高める。

利水
組織中の水分を血中に吸収して利尿により除き、浮腫を消退させる。

出典：臨床応用漢方処方ガイド

家庭医の持っておきたい神⑦

① 麻黄剤（葛根湯、小青竜湯、麻黄湯）
② 咳に対して（麦門冬湯、小青竜湯）
③ 小柴胡湯（柴朴湯、柴胡桂枝湯）
④ 胃腸病に対して（安中散、半夏瀉心湯、黄連解毒湯、）
⑤ 利水（五苓散）
⑥ 肝（加味逍遥散）
⑦ 補剤（補中益気湯）

医）佐守小児科

補中益気湯（ほちゅうえっきとう）に配合される主な生薬

補気健脾（ほきけんぴ）

消化吸収機能を高め、元気をつける

人参（にんじん）

【原料】ウコギ科のオタネニンジンの細根を除いた根またはこれを軽く湯通ししたもの

固表止汗（こひょうしかん）

汗腺の機能を高めて汗を止める

白朮（びゃくじゅつ）

【原料】キク科のオケラまたはオオバナオケラの根茎

黄耆（おうぎ）

【原料】マメ科のキバナオウギまたは同属植物の根

升提（しょうてい）

筋の緊張を高める

升麻（しょうま）

【原料】キンポウゲ科のサラシナショウマまたは同属植物の根茎

柴胡（さいこ）

【原料】セリ科のミシマサイコまたはその変種の根

理気（りき）

気を巡らせ、胃腸の蠕動運動を促進する

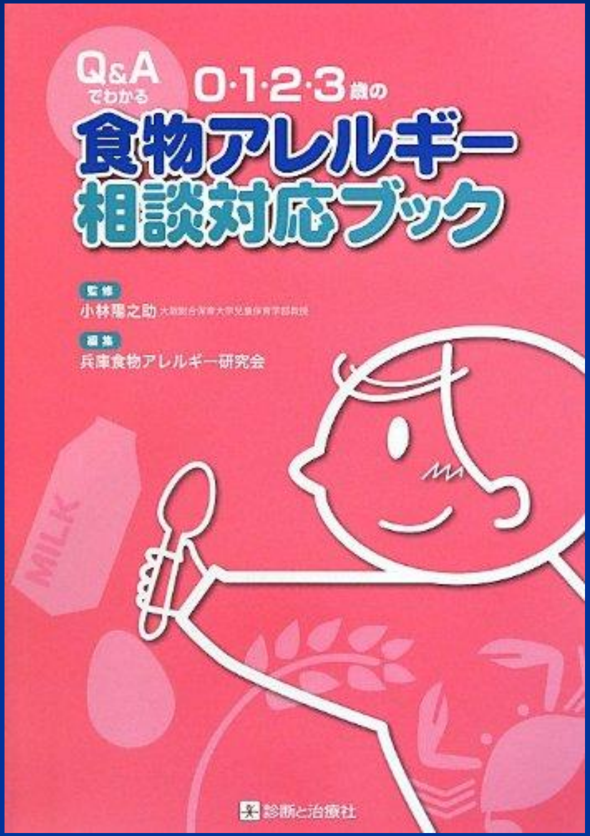
陳皮（ちんぴ）

【原料】ミカン科のウンシュウミカンの他近縁植物の成熟した果皮

山田光胤先生･四訓

- 大塚敬節先生　遺訓　第一
  漢方を研究しようという固い意志を立てる
- 脈診、腹診　心をこめて。
- 手裡乱糸当用緩方
- 散木となるなかれ！

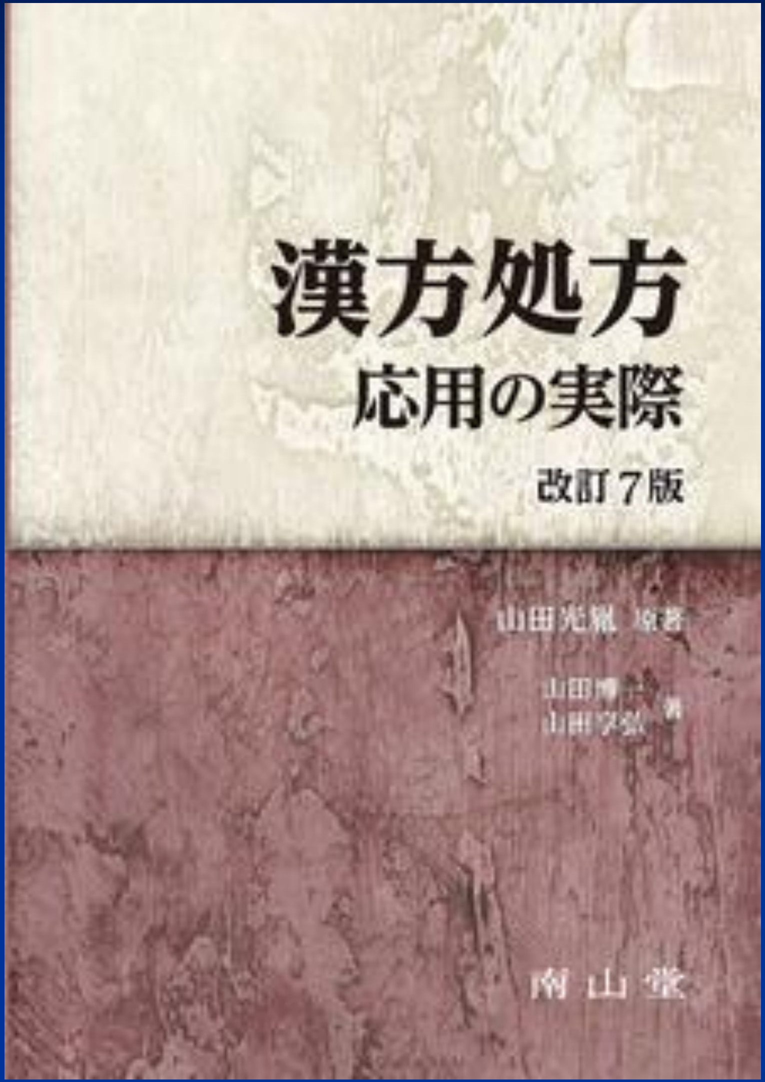
書籍紹介



診断と治療社

医）佐守小児科

漢方処方応用の実際



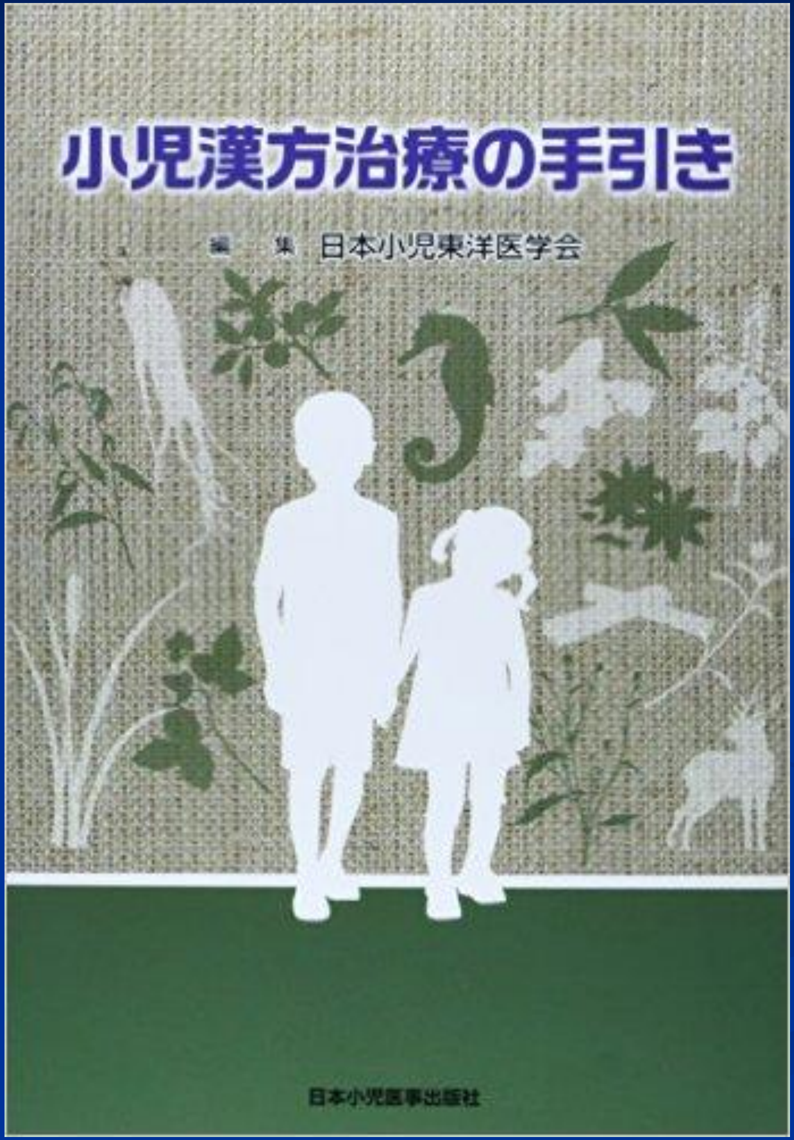
南山堂
2012年7月 発行

漢方処方応用のコツ

創元社

漢方双書 / 2015.3

小児漢方治療の手引き



書籍紹介

医）佐守小児科